

ホーム名：くみのき苑グループホーム2F					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を踏まえ、地域社会に参画するという理念を掲げ、E V横に掲示している。	事業所独自の理念である「自立支援・個人の尊重と個別ケア・目標の実現・地域社会参画、地域における活動拠点の場」を2・3のエレベーター入口横に掲示している。職員は朝礼の際、唱和して認識を新たに、実践に繋げている。	「生きがいデイサービス」「キャラバンメイト」「徘徊模擬訓練」などの活動は、地域社会に参画し、地域の活動拠点として機能している。地域密着型事業所として今後の取り組みに期待している。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流は少ない。地域のスーパーなどに買い物に出かけている。	狭山地区の地域包括を中心として、西山台住宅地で開催された「徘徊模擬訓練」では、職員が認知症高齢者の役を演じ、地域住民が声掛けや対応方法、接し方を学んだ。また、東茱萸木自治会には24年度中に加入する予定である。	認知症デイサービスや、生きがいデイサービスの実施により、地域ケアの拠点として機能していく姿勢が感じられる。今後は事業所が蓄積した成果を、介護教室や介護相談などで地域に還元して頂きたい。自治会加入により地域住民との交流の機会が増えることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症デイサービスの受け入れを通じて、ご家族と支援について話すことができています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回の運営推進会議で、サービス内容や報告事を伝えている。会議で出た意見は、サービス向上に向けて取り組んでいる。	民生委員・地域包括職員・介護相談員その他、家族が多数参加して2カ月に1回開催されている。会議では、入居者の日々の暮らしの状況をスライドショーで紹介し、衣食住・環境をテーマにしたホームの取り組みと目標の達成報告、入居者・職員の異動状況の報告を行った後、意見交換をし要望や助言を得ている。	自治会加入に伴い、自治会長・老人会長の参加も得て、それぞれの立場からの意見を取り入れ、サービス向上に活かして欲しい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	市担当者や地域包括支援センターの職員と、連絡を取り合っている。認知症デイサービス利用者の紹介をいただいている。	市高齢介護課には、運営推進会議議事録と次回開催案内を届けたり、市が主催する「福祉展」の寸劇や、認知症サポーター講習に職員を派遣している。介護予防事業「生きがいデイサービス」や、地域包括からは認知症デイサービス利用者の紹介を受け、日中の生活支援を行っている。	市町村担当者とは、日頃から事業所のケアサービスの取り組み状況を伝えながら、良好な関係を継続して頂きたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	全職員に対して制止しない声かけを徹底している。玄関の開錠はできていない。	施錠以外は、指定基準で禁止されている身体的拘束を行っていない。非常口・玄関は施錠しているが、入居者が外に出ようとする時は、止めないで一緒に外に出て見守っている。	入居者の動きを止めない声掛けを心がけている。ユニット会議や全体会議で権利擁護や身体拘束に関する勉強会を実施し、抑圧感の無い暮らしの実現が望まれる。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で学び、その内容について現場に伝えている		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>相談があれば地域包括支援センターを紹介している。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、ご家族に説明を行い、理解・納得を図っている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議で質疑応答や意見交換の時間を設けご家族が意見を発言しやすいような雰囲気作りに努めている</p>	<p>運営推進会議には、家族の参加が多く、意見を出しやすい様に配慮をしている。家族アンケートを実施し、回収率は100%であった。現在、その対策・対処を目標として取り組んでいる。</p>	<p>職員の異動が一度にあると、入居者が動揺するので、時間をかけたゆるやかな対応を望むとの声が届いている。入居者が慣れるまで重複した勤務体制を取るなどの対策が望まれる。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>各行事から節電の取り組みまで、職員が提案した計画書を確認した後は、各部署に任せている。</p>	<p>職員からは納涼大会・バーベキュー大会・遠方外出の計画書などが提出される。毎日の食材の買い物情報や、節電の取り組みについても提案が出され、実行している。各階のリーダーが年2回、個別面談を行い、個人的な意見・要望を聞いている。</p>	<p>各階のリーダーや管理者は、職員の気付きやアイデアをよく聴き、運営に反映させていきたい。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者が、職員個々の状況把握に努めている。向上心を持って働けるよう意見を積極的に取り入れている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修や内部研修が行われている。内部研修では、全職員が同じプログラムに参加。現在、法人内他施設相互研修を行っている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>大阪狭山市が主催するハートケアフェスタ（福祉展）へ法人として職員を派遣して他施設職員との交流を行っている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前に面接を行い、ご本人との関係づくりに努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前の面接を行い、ご家族との関係づくりに努めている。入所後も、面会時に日々のご様子を伝え、以前の暮らしぶりを伺い、ご本人の安全に努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>要望や困っている事をゆっくり時間をかけて意見を聞き把握できる様に努めている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>日常生活の中から時間を共有しご本人の意志を尊重しながら関わる。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご本人とご家族との面会時間を大切にしている。一緒にフロアや居室で過ごされている。ご本人の様子をお話し、日頃の生活を知っていただく。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みのある方との面会を促し、関係が途切れないように努めている。</p>	<p>散歩を兼ねて馴染みの美容室にカットの付添をしたり、日課として毎日2時に家族と携帯電話で話したりできるよう支援をしている。実家の法事に参加する等、家族の支援で外出や外泊をする入居者もいる。</p>	<p>元電車の運転手の方は、南海電車の工場を訪れ喜ばれた。時間や人員の制約もある中、遠方で外出が困難な場合は、写真だけでも懐かしいものである。様々な工夫による関係継続の支援をお願いしたい。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>ご利用者同士が自由にお話されるスペースを作っている。孤立されないように職員が食事やレクレーション等フォローに入っている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない仕組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所後も、同法人内であれば、面会することもでき、ご家族とお話しする機会があれば、様子をお聞きしている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族に意向を伺い、本人本位の暮らしができるように努めている。	日頃から入居者と積極的に関わりを持ち、本人の暮らし方への希望・意向の把握に努めている。失語症や重度の認知症の方に対しては、身振り・態度・表情などの非言語的コミュニケーションを大切に意向を汲み取っている。	職員全員が入居者一人ひとりの思いを把握し、自分らしい暮らしが出来るような支援に取り組んで頂きたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	ご家族に生活歴を記入していただき、生活歴や生活環境の把握に努めている。入所後もご家族も共に調整している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートを利用し、現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の様子を観察・記録し、現状把握をし、介護計画に活かしている。	介護計画は、個別記録を元に本人・家族・フロアリーダーなど関係者で話し合っ作成し、要望に応じた生活上の課題を達成するための目標を設定している。計画は心身の状況に変化が無ければ6カ月ごとに、通常は変化に応じて3～4カ月ごとに見直している。	計画された援助が効果を上げているか、話した言葉や態度・表情などを記録に留め、本人の望む暮らし方が達成できているか、日々評価する必要がある。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子やケアの実践について記録し、情報共有をしている。介護計画に添った内容も記録し、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームでの生活が困難になられた時に備えて、特養などの事前入所申し込みを促している。また、必要時には老健などの紹介も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	二ヶ月に一回、介護相談員の面会があり、ご本人の思いを聞き出せたケースもある。今年度より、定期的なお話ボランティアの受け入れを実施している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主に、提携病院の医師が主治医となるが、病状やご家族の希望で、他の医療機関を受診することもある。	現在入居者は、提携病院の医師が主治医となっているが、本人や家族の要望により、他の医療機関を受診することもある。精神科、内科は月2回、歯科が月4回で歯石除去や噛み合せ調整、舌苔、腫れの治療等をしている。	「ホームでの医療サービス内容が知りたい」との声が寄せられたが、訪問診療は「本人と医療機関との間の契約によるもので、義務付けるものではない」と明記されている。今回は当ホーム事業部長から医療機関に要望の内容を連絡して頂くことになった。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>特養併設の看護師に週2回入居者の方々の状態を見て貰っている。必要に応じて連絡し指示を仰いでいる。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時には介護サマリーで情報伝達をしている。退院については、担当医・看護師・相談員と調整し、早期退院できるように努めている。また、近くの病院であれば、ご本人が安心できるように面会に伺っている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化に備えて、特養の事前申し込みを促している。状態変化があった場合は、ご家族に状態や病状の説明、起こり得る事やGHでできることを相談し、介護方針を共有している。</p>	<p>グループホームに隣接して、介護老人福祉施設くみのき苑がある。自立歩行が出来なくなり、重介護が必要になると退去し、機械浴やミキサー食など設備が整って最適な介護が受けられるよう、特養に入居するという方針で合意している。しかし、当ホームの支援により101歳の方もご健在であった。</p>	<p>大規模施設ではなく馴染みの当ホームで最期を、との要望に備えてターミナルケアの実践に係る知識・緩和ケア・介護方法等にも取り組んで頂きたい。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の対応について、全体会議で説明している。入居者の情報を日々更新している。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の消防訓練を実施している。災害時における地域の避難場所は、併設の特養を指定している。</p>	<p>消防署立ち合いの下、避難訓練を年2回、自主訓練を年1回実施している。災害時の避難場所は併設の老人福祉施設である。1階にAEDが設置されているが、まだ使用したことはない。</p>	<p>地震が全国各地で多発している昨今、災害対策は重要である。いざという時に活用できるよう、職員全員がAEDの使用方法を習得されたい。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の方を尊重した、声かけや対応がをしている。プライバシーに対し慎重に対応している。	相手を尊重した対応をする為、職員は「相づち・うなずき・目を見て話を聞く・明るく元気・笑顔で挨拶」等、月間目標を腕章に書き、日々実践している。	自分では気づき難い事もあるので、お互いに言葉かけや対応を評価して、職員会議で表彰も行われる。常に改善に努めている姿勢が感じられ、継続を願う。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりから信頼関係を築けるよう努力し、ご本人の思いを聞き自己決定していただく様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の思いを大切にし、その思いに添える様おひとりおひとりのペースに合わせて支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院に外出したり、毛染めを希望される方は、させていただいたり個々にあった支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に買い物から食事作りまで楽しく出来るよう心がけている。季節の食材を積極的に取り込んで旬を味わっていただいている。	入居者の好みを聞いて一緒に献立を考え、買い物や準備、食事、片づけ等を行っている。食堂には入居者が色紙に「お品書き」として昼食と夕食のメニューを書いて壁面に掛けてあり、手作りの暖かい雰囲気が伝わってくる。	献立表に朝食の記載が無いが、パンや煮麺、雑炊等が用意されている。朝食は健康上からも重要であるので、栄養面も考慮してしっかり摂取することが望ましい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を把握できるようにチェックを行っている。状態によって申し送りを強化し必要に応じてDr、Nsに相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯科Drの指導の元、個々に応じた口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、おひとりおひとりの排泄を把握し、自立を目的とした支援を行っている。	排泄チェック表には、大が◎、小が○、無しが×、ポータブルトイレが「ポ」、トイレが「ト」と記録し、翌日のトイレ誘導の時間に活用し、自立に向けた支援を行っている。	排泄の自立は、生きる意欲や自信の回復に繋がる。今後も排泄チェック表を活用して自立支援に取り組んで頂きたい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないよう、水分摂取量や運動を心がけている。排便量は毎日チェックし必要なら下剤を追加し便秘にならないよう取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員が都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の希望があれば、できるだけその日に入っていたり配慮している。入浴の順番も、個々に合わせて配慮している。	入浴は週2回、午後3時半から夕食までとしているが、午前の散歩で汗をかいた時はシャワーや着替えなど、適切な支援を行っている。入浴拒否が強い人に対してベテランの介護福祉士は、相手の立場に立って身体をいたわる声掛けを続けることで、問題を解決したそうである。	入浴拒否に対しては、時間を変え、人を変えるなど工夫して楽しい入浴ができるようお願いしたい。

46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を知り、それに合わせた就寝介助を行っている。不眠であれば、日中休息を促している。安眠できるよう、声かけや環境に気を付けている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬の副作用や要領についての理解は、全職員となると理解力に乏しい。しかし、服薬目的や用法については、情報を共有できている、症状の変化の確認に努めている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人らしく生活できるように、個々の希望に添った楽しみごとや、生活歴などから個人を知り、張り合いのある生活支援に努めている。		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個々の希望を聞きだせるよう、関わりを大切にしている。馴染みの場所への外出希望があれば、出かけられるようご家族とも協力している。	散歩を兼ねて買い物に行ったり、ホームの近くを流れる西除川にカメを見に行く事もある。桜の季節には弁当を重箱に詰めて、狭山池や特養のガーデンの桜見物に、また家族の協力を得て実家の法事や簡保の宿に出掛ける方もいる。	外出は本人にとっても職員にとっても気分転換になり、ストレス発散になる。夜間の上質な睡眠にも繋がるので、短時間でも外出する習慣を作って頂きたい。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持を希望される方には、ご自身で所持していただいております、買い物時、支払いも行っている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご本人から希望があれば、電話をかけた、手紙も出していただいている。		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある装飾をしたり、居心地よく過ごせる空間作りに努めている。状態によって、居心地よく過ごせられるよう、リビングのテーブル配置を変えている。	居間には、角に丸みをもたせた優しいデザインのテーブルと椅子が設置され、壁面には簾に朝顔の装飾が清涼感を漂わせている。昼コーナーは掘り炬燵が設えてあり、冬には食事や昼寝、洗濯たたみなどに利用している。	冬季に室温は快適だが足先が冷えるとの声が聞かれた。足浴や膝掛け等の対応が望まれる。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内にソファを設置し、違う空間を提供できている。和室も活用でき、独りになれたり静かに過ごせる空間を提供できている。		
54	20 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具などで、居場所を感じることができ、落ち着いた環境になるよう配慮している。	好みの机や椅子、家族の写真、使い慣れた筆筒などを置き、落ち着いた居室となっている。各居室に洗面台とクローゼットが備え付けられている。	各居室毎に一人ひとり、心のこもった職員手作りの表札が掛けられている。若年性認知症の入居者のドアには鈴がつけられている。外出を察知した時には、職員は入居者の見守りに徹して頂きたい。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のニーズの把握に努め、安全な歩行や伝い歩きができるように家具の配置や、物を置きすぎないよう環境に留意している。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない